

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

大分県立情報科学高等学校

## 【取組内容】校務DX：ファイル管理のクラウド化と校務の効率化を実現させる活用事例集の共有

## ◆会議の削減

チャットスペースを分掌ごとや授業担当者ごとなど用途に応じて開設。

事前資料の配布や再確認、履歴による確認などが可能になり、会議時間の大幅な短縮と回数の削減を実現。

共有分掌（一人が複数の分掌にまたがる）にも対応できるため、不在でも確認ができるとともに日程の調整の必要がなくなった。分掌によっては年間8回の会議をすべてチャットスペースを活用する方法で実施できた。

このチャットスペースの活用については実践例の報告とメリットを職員研修（2か月に1度）で報告した。

結果チャットスペースの利用が10スペース以上増加した。



## ◆アイデアの共有

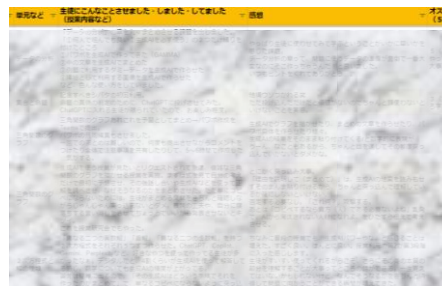
クラウドを活用した様々な事例を生徒利用、教員活用で常時募集。普段の何気ない取り組みを気軽に入力できるようにスプレッドシートを活用。

現在で100以上の活用事例が集まっている。

また、職員研修（20分限定で2か月に1回実施）にて分掌が紹介。アイデアを基にしたさらなるアイデアにつながるなど先生方の活用のヒントが広がりを見せている。

授業への展開も見られるようになった。

職員研修のモットーは「使って楽しい」「仕事が楽になるを実現」



## ◆データの共有

これまで閉ざされた空間のみで利用できるグループウェアを活用した情報共有（日程や行事関係、提出書類）をしてきたが、これを徐々に変更。分掌主任を中心にデータの保存場所や共有場所を外部から活用できるようにした（セキュリティ上問題のない状態）年度途中からの実施のため、浸透度はまだまだ十分ではないが、職員研修を活用して徐々に浸透。データの保存方法もURLによる保存。

使ってみると便利が徐々に浸透→先生の普段使いが生徒の普段使いに